



株主通信

第118期 中間報告書
2014.4.1 >>>> 2014.9.30

鉄から広がる無限大“∞”

当社の製品は私たちの暮らしの身近なところで活躍しています。

“鉄”とともに歩み続けてきた東洋鋼鈑はこれまでさまざまな製品を世に送り出してきました。今日ではその伝統で培った、圧延、表面処理、ラミネートなどの技術をもとに“鉄”から“非鉄”や“樹脂”へと自らのフィールドを拡大しています。



日本で民間初のぶりきメーカー

その他材料

- 梱包資材用帯鋼
- 機械器具
- 硬質合金



バルブ自動開閉器(ベスタルク)

缶用材料

- ラミネート鋼板
- ぶりき
- ティンフリースチール



食缶・インキ缶(ぶりき)

電気・電子部品材料 自動車・機械部品材料

- ニッケルめっき鋼板
- 電気垂鉛めっき鋼板
- 冷延鋼板



ハイブリッドカー用電池部品(角孔芯体材)

機能材料

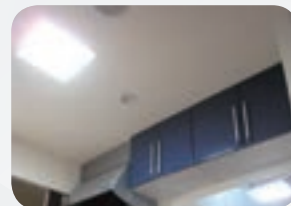
- 磁気ディスク用アルミ基板
- 光学用機能フィルム



液晶テレビ、スマートフォン向けフィルム
(光学用機能フィルム)

建築・家電用材料

- 樹脂化粧鋼板
- 銀鏡めっき金属板



太陽光採光システム『どこでも光窓』
(銀鏡めっき金属板)



代表取締役社長

隅田博彦

第118期中間報告書をお届けするにあたり、
代表取締役社長 隅田博彦へのインタビューを通して
当社グループの現状と今後の動向をご説明いたします。

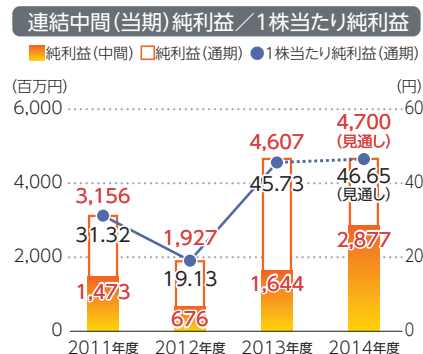
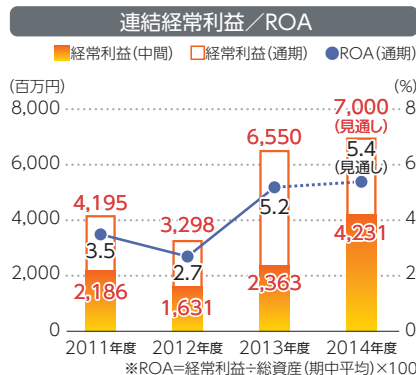
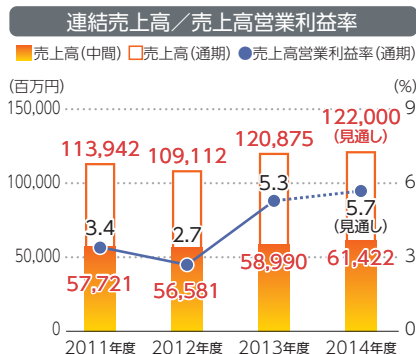
増収増益を達成。 更なる業績向上を目指し、 事業基盤の強化を図ってまいります。

Q 当中間期の経営成績について
ご解説ください。

A 鋼板関連事業が増益。
機能材料関連事業も好調でした。

鉄鋼業界では国内需要が堅調であった一方、アジアや新興国経済の停滞が続くなど、総じて先行き不透明な状態で推移しました。このような環境の中、当中間期の連結経営成績は売上高が614億222百万円(前年同期比4.1%増)、営業利益38億74百万円(前年同期比68.1%増)、経常利益42億31百万円(前年同期比79.1%増)、中間純利益28億77百万円(前年同期比74.9%増)となりました。

セグメント別の経営成績を見ますと、主力の鋼板関連事業において、売上高は前年同期比4.1%の増加、営業利益は前年同期比113.1%の増加となったことが、全体の業績



トップインタビュー

に大きく寄与しました。缶コーヒーの需要減によって缶用材料の販売が減少したものの、ハイブリッド車や電気自動車に使われる車載用バッテリー向けのニッケルめっき鋼板が好調だったほか、ユニットバス向け内装材も積極的な販促活動が奏功して売上を伸ばしました。このほか、機能材料関連事業ではフラットパネル用ディスプレイ向けの光学用機能フィルムなどが好調で増収増益、その他事業も増収増益となりました。全体として、販売数量の増加に加えて円安の恩恵もあり、増収増益となりました。



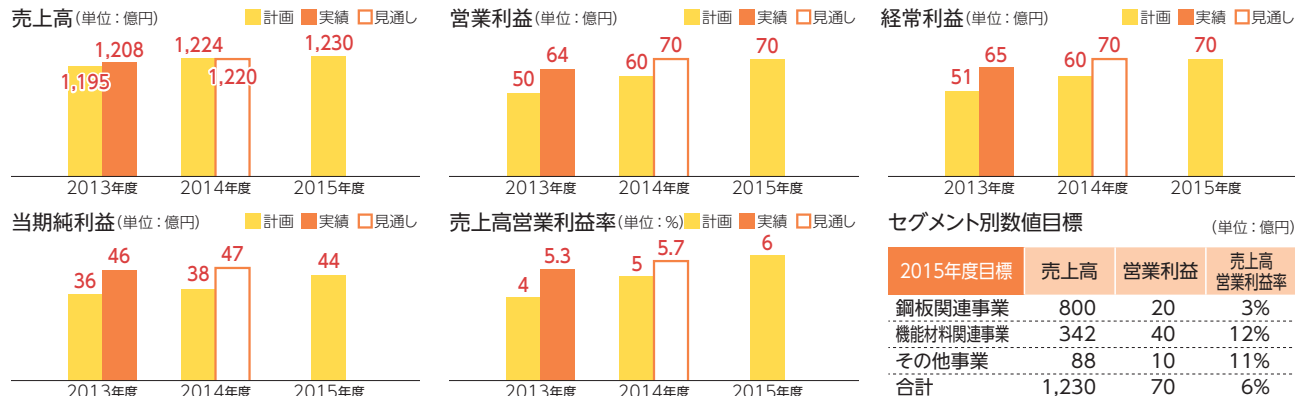
Q 中期経営計画の進捗状況と
 通期業績予想についてお聞かせください。

A トルコ合弁会社での工場建設工事は
 順調に進捗。機能材料関連事業も強化。

現在取り組んでいる中期経営計画「TK WORKS Beginning」は、ちょうど1年半の中間点を迎えたところです。缶用材料の落ち込みなどのマイナス要因も一部あったものの、それを他の製品で補うことができている、ここまではほぼ計画通りに進捗していると考えています。

鋼板関連事業では特に、当中間期の成果としてもご紹介した車載用バッテリー向けのニッケルめっき鋼板が好調です。日本では既にハイブリッド車が普及していますが、今後はハイブリッド車のほか電気自動車が世界的な普及期を迎えます。それに伴うニッケルめっき鋼板の需要増に対応べく、当社も体制を整えてまいります。また、2016年の稼働を目指すトルコ・トサル トーヨー社の工場では、建設工事が順調に進んでいるほか、現地スタッフの陣容も整ってきました。

TK WORKS Beginning 3ヶ年損益目標(連結)



機能材料関連事業では、長年需給の変動に業績を左右されてきた磁気ディスク用アルミ基板が、安定したビジネスになってきました。記録密度の高い高品質基板が求められますが、当社の技術力が評価され受注が増加し、価格も以前より安定してきました。このほか、開発を続けてきたDNAチップについても、早期事業化の実現に向け、取り組みを一層強化してまいります。

通期の連結業績につきましては、期初予想に変更はなく、売上高1,220億円(前期比0.9%増)、営業利益70億円(前期比8.5%増)、経常利益70億円(前期比6.9%増)、当期純利益47億円(前期比2.0%増)と予想しています。缶用材料の需要の減少が見込まれるほか、原材料・エネルギー価格の高騰が懸念されますが、一方で、車載用バッテリー向けや建築用の鋼板、機能材料関連は引き続き旺盛な需要を背景に販売を伸ばしていけると期待しています。スマートフォンやタブレット向けなどの光学用機能フィルムにつきましては、下松事業所の生産ラインを増強し、今後の更なる需要に対応してまいります。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 真のグローバル企業を目指し、従業員の意識改革に努めます。

中間配当金につきましては、前年同期比1円増配の1株当たり5円とさせていただきます。期末配当金についても5円を予定しております。

6月末の社長就任以来、事業所や本社・支店・営業所の様々な部署を巡り、多くの従業員と対話を重ねてきました。当社には自身の殻を破って新しいことに挑戦しようという気概を持った社員がまだまだ少ないように感じています。当社が真のグローバル企業になるためには、一人ひとりの従業員が高い意識を持ち、自立したたくましい存在にならなければなりません。こうした人材を一人でも多く育てることで、東洋鋼鈹の更なる成長を実現し、明るい未来を切り拓いてまいり所存です。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

TK WORKS Beginning 事業戦略

事業戦略

既存事業の
基盤強化

グローバル市場への
積極的参入

新規事業の
創出

鋼板関連事業

- 生産プロセスの改革による更なる原価率の低減
- マーケティング活動を強化し、海外市場を積極的に開拓
- 固有技術の集積化を図り、新規製品を具現化

各セグメント別の戦略

機能材料関連事業

磁気ディスク事業

- 省プロセス化技術開発による生産量拡大と原価率低減
- 顧客との戦略的アライアンス構築による市場シェア拡大

フィルム事業

- ディスプレイ向け光学フィルム事業の拡大
- フィルム高付加価値化による事業領域拡大

その他事業

機械事業

- 新エネルギー関連分野への新規展開
- エンジニアリング事業の立上げ

東洋鋼鈹のCSR活動

当社は1934年、ぶりきの国産自給化を実現すべく誕生した民間初のぶりきメーカーですが、80年という歴史を重ねる中で、その技術を発展させ、鉄のみならず非鉄、樹脂等の分野へも活躍の場を広げてきました。

このような事業活動を行う中で、当社はお客様にご満足いただける製品やサービスを提供するのはもちろんのこと、すべてのステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを実践し、信頼関係を築けるよう、経営理念、行動指針、ビジョンに基づき行動してまいります。

経営理念

- 1 東洋鋼鈹は永続的に有益な価値を提供し、地球環境や社会の進歩に貢献します。
- 2 東洋鋼鈹はすべての社員が豊かな社会生活を営む環境を作ります。
- 3 東洋鋼鈹は常に新しい技術の可能性を追求し、成長する企業であり続けます。

行動指針

- 1 法令や社会的規範を守り、高い倫理観を持って行動します。
- 2 すべてのステークホルダーに対してコミュニケーションを実践し、社会との共生を図ります。
- 3 互いの人間性、多様性を尊重し、透明性の高い職場を作ります。
- 4 常に新しいことを探求する眼と挑戦する勇気を持ち続けます。
- 5 一人ひとりが「素な心」を心に宿し、正々堂々と社会に新たな価値を上げます。

ビジョン

当社はぶりき製造で誕生した会社ですが、その技術を発展させ非鉄、樹脂等を精密加工することにより、世界の鉄鋼業で類を見ないビジネスモデルの会社を目指します。

多様な技術で社会に貢献

当社は、鋼板事業で長年培ってきた技術を非鉄や樹脂等の加工に応用することで、自らの事業領域を拡大してきました。その代表例が、パソコンやサーバーに搭載されるハードディスクの基板材と液晶テレビやスマートフォンに使用される光学用機能フィルムです。

また現在では、新規事業としてDNAチップの開発に取り組んでいます。東洋鋼板は、これからも新たな技術の探求を続け、社会の進歩に貢献する存在であり続けます。



磁気ディスク用アルミ基板



DNAチップ

コミュニケーションの実践

下松事業所(山口県下松市)では、地域交流イベント「下松事業所開放デー」や、小・中学生を始め、広く工場見学の受け入れを行っております。また、下松市が主催する次世代育成事業への支援や、清掃活動へ積極的に参加するなど、地域社会との共生を図っております。



「下松事業所開放デー」



工場見学受け入れ



次世代育成事業支援



地域清掃活動参加

環境への取り組み

当社は、人と地球にやさしい製品をお届けするため、環境と調和した事業活動を行っております。また、少ないエネルギーで高い照度が得られる反射笠「SetsuDenミラー」や、内部が鏡面になったダクトで自然光を室内に届ける「どこでも光窓」など、環境に配慮した製品の提供に積極的に取り組んでいます。

※ SetsuDenミラーは環境省の環境技術実証事業において、照明用エネルギー低減技術(反射板、拡散板等)として選定されています。



◀「SetsuDenミラー」



展示会出展



「どこでも光窓」導入事例

当中間期のポイント

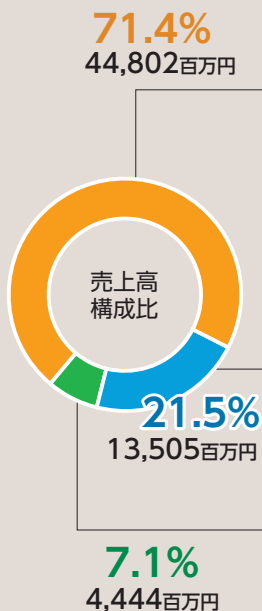
POINT

- **売上高** 61,422百万円
(前年同期比 4.1%増)
- **営業利益** 3,874百万円
(前年同期比 68.1%増)
- **経常利益** 4,231百万円
(前年同期比 79.1%増)
- **中間純利益** 2,877百万円
(前年同期比 74.9%増)

- POINT ①** 鋼板関連事業は缶用材料が減収となるもののその他の販売数量が増加し大幅な増益を確保。
- POINT ②** 機能材料関連事業は光学用機能フィルムの着実な浸透などにより増収増益。
- POINT ③** その他事業は販売数量が増加したこともあり増収増益。

セグメント情報

SEGMENT INFORMATION



各事業の売上高は事業間の取引による金額を含んでおります。

鋼板関連事業

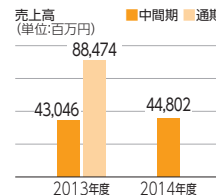


事業内容

缶用材料、電気・電子部品、自動車・産業機械部品、建築・家電向け材料の製造および販売

事業の概況

- 缶用材料は、缶コーヒーの販売不振の影響を受け減収。
- 電気・電子部品向けは、車載用電池用途で販売数量が増加。
- 自動車・産業機械部品向けは、ベアリングシール用途やガスケット用途の販売数量が増加。
- 建築・家電向けは、ユニットバス向けの内装材の販売数量が増加。



機能材料関連事業

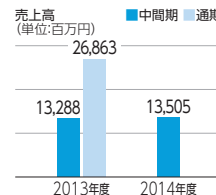


事業内容

磁気ディスク用アルミ基板、光学用機能フィルムの製造および販売

事業の概況

- 磁気ディスク用アルミ基板は、販売数量が減少するも為替の影響もあり増収。
- 光学用機能フィルムは、機能優位性を認められ着実に浸透。



その他事業

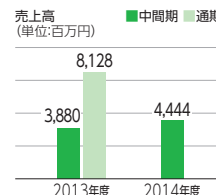


事業内容

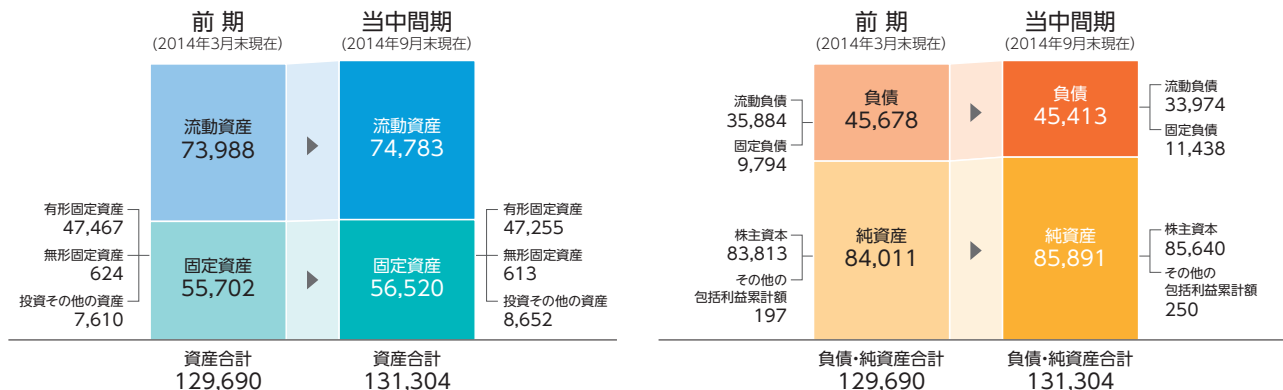
梱包資材用帯鋼、機械器具、硬質合金の製造および販売

事業の概況

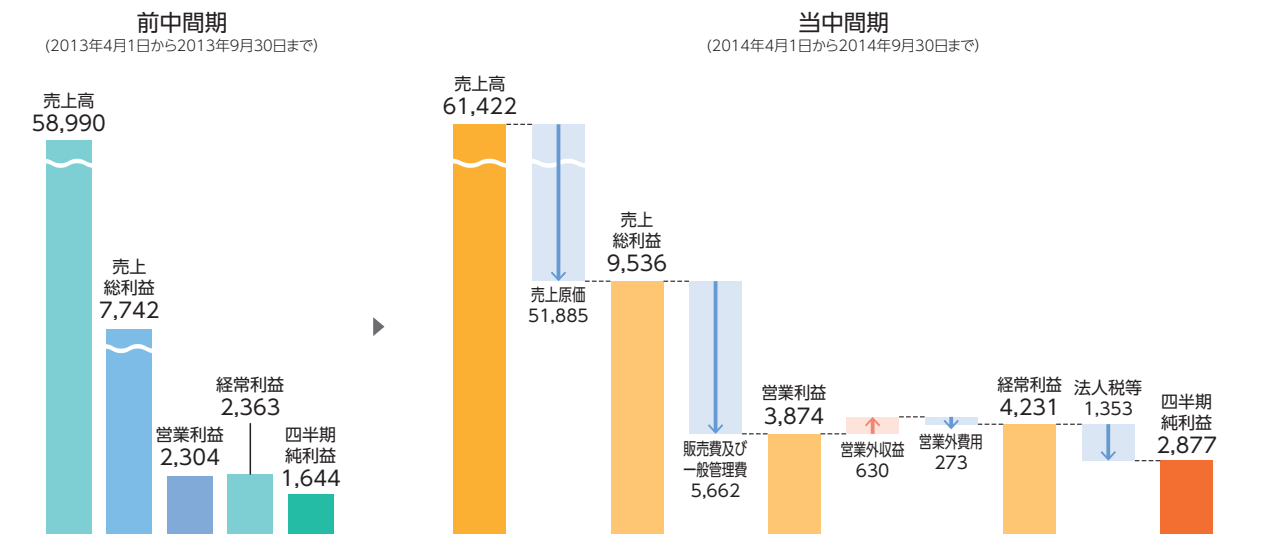
- 梱包資材用帯鋼は、需要が堅調に推移。
- コイル結束装置は、販売数量が増加。
- 硬質合金は、射出成形機部品とプラスチック金型の販売数量がともに増加。



財務状況 (単位: 百万円)



経営成績 (単位: 百万円)



i-TOP

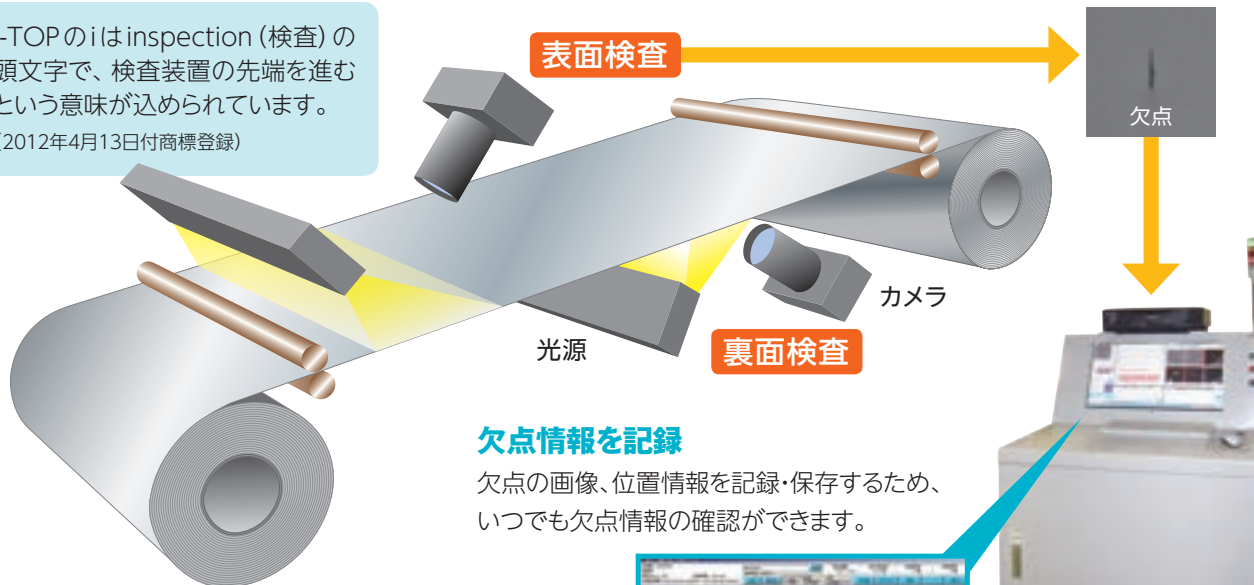
表面処理鋼板のパイオニアである当社ならではの製品

「鋼板表面検査装置i-TOP」をご紹介します。

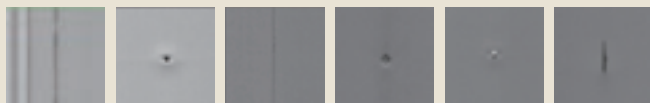
i-TOPは、従来の検査装置では検出できなかった欠点も決して見逃さず、高機能フィルムや高速マシンにも対応した表面欠点検出装置です。

i-TOPのiはinspection（検査）の頭文字で、検査装置の先端を進むという意味が込められています。

(2012年4月13日付商標登録)



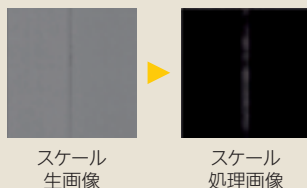
欠点画像 ※欠点画像サンプル(60mm角)



エッジスケール 褐色汚れ (スラッジ嘴込) スケール 穴 押さえ跡 掻き疵

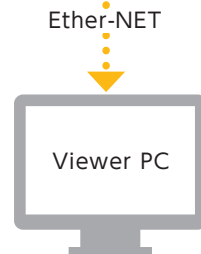
画像処理

画像処理による欠点の強調、ノイズ除去が可能です。



事務所で欠点確認

基本OSがWindowsのため、ネットワーク環境があれば、事務所で欠点情報を確認することができます。



会社概要／株式の状況

CORPORATE PROFILE & STOCK INFORMATION

(2014年9月30日現在)

会社の概況

商号 東洋鋼鋳株式会社
 本社 東京都千代田区四番町2番地12
 設立 1934年4月11日
 資本金 50億4,000万円
 従業員数 2,180名(連結)
 事業所 本社(東京都)、大阪支店、仙台営業所、名古屋営業所、
 広島営業所、福岡営業所、技術研究所(山口県下松市)、
 下松事業所(山口県下松市)

役員

取締役会長	田中厚夫	専務執行役員	坂本信夫
代表取締役社長	隅田博彦	執行役員	浪岡貞之
取締役専務執行役員	吉武潤一郎	執行役員	田辺敏幸
取締役常務執行役員	宮地正文	執行役員	藤井孝司
取締役	林芳郎	執行役員	森賀俊典
取締役	山縣富士雄	執行役員	長谷川浩
常勤監査役	根岸保弘	執行役員	塩道行正
監査役	宮本光晴		
監査役	大川邦夫		
監査役	染谷良		

東洋鋼鋳グループ

国内 鋼鋳商事株式会社
 鋼鋳工業株式会社
 KYテクノロジー株式会社
 東洋パックス株式会社
 共同海運株式会社
 下松運輸株式会社
 東洋パートナー株式会社

海外 TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN.BHD. (マレーシア)
 上海東洋鋼鋳商貿有限公司(中国)
 湖南東洋利徳材料科技有限公司(中国)
 江蘇東洋鋼鋳新材料科技有限公司(中国)
 韓国鋼鋳工業株式会社(韓国)
 Kanagata (Thailand) Co.,Ltd.(タイ)
 TOSYALI TOYO CELIK ANONIM SIRKETI(トルコ)

株式の状況

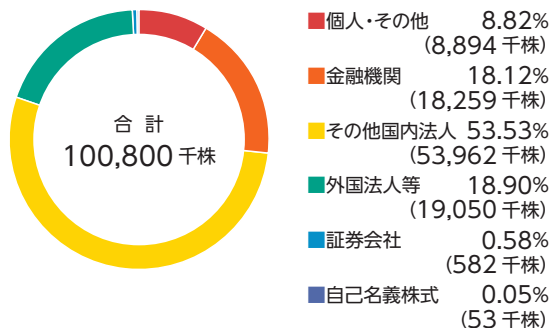
発行可能株式総数 403,200,000株
 発行済株式の総数 100,800,000株
 株主数 2,655名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東洋製罐グループホールディングス株式会社	47,885	47.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,418	3.39
株式会社三井住友銀行	2,980	2.96
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,122	2.11
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	2,110	2.09
公益財団法人 東洋食品研究所	2,055	2.04
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	1,656	1.64
株式会社淀川製鋼所	1,429	1.42
株式会社山口銀行	1,316	1.31
新日鐵住金株式会社	1,200	1.19

(注) 1. 持株比率は自己株式を除いて計算しております。
 2. 千株未満は切り捨て、小数点以下第3位は四捨五入しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031
(インターネット) (ホームページURL)	http://www.smtb.jp/personal/ agency/index.html
公告方法	電子公告 公告掲載URL http://www.toyokohan.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

お問合せ

証券口座で株式を保有している株主さま	住所変更、買取請求その他お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
特別口座で株式を保有している株主さま	住所変更、買取請求その他お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(三井住友信託銀行株式会社)にお問合せください。

東洋鋼鋳株式会社

〒102-8447 東京都千代田区四番町2番地12
電話 (03)5211-6211(代表)
ホームページURL tkworks.jp



本冊子は環境保全のため
植物油インキで印刷しています。



ホームページのご案内

コーポレートサイト



当社のホームページでは、投資家の皆さま向けのIR情報をはじめ、当社の製品を紹介する「身近な東洋鋼鋳」など、さまざまな情報を掲載しております。

tkworks.jp

IRサイト



IRサイトでは適時開示情報をはじめ、決算短信などの各種IR関連資料やIRトピックス、株価情報など最新の情報を提供しております。

[http://www.toyokohan.co.jp/
ja/ir/index.html](http://www.toyokohan.co.jp/ja/ir/index.html)